

町長所信

(要旨)

去る三月十一日に震災しました東日本大震災から百日余りが経過しました。これまで昨日の時点で、死者、

行方不明者が二万三千人余り、今なお十二万人余りの方が避難し、福島第一原子力発電所も終息の目途さえ立っていません。これまで牟岐町からも宮城県へ三人の職員を派遣してきましたが、現在も二人、そして、七月二十七日からも二人派遣する予定です。



鍛冶屋谷山山頂より

さて、私にとりましては、初めての定例町議会です。で、選挙公約も含めた所信を述べたいと思います。

に充実していきます。第二の仕事の創造ですが、次の五つ、一次産業の活性化、地場産業の育成、交流人口の増加、街並み景観と自然景観の整備、有償ボランティア事業の創造に分類し、説明します。

牟岐町にはリアス式海岸と出羽島をはじめとした風光明媚な素晴らしい海洋資源があります。また、少年自然の家、鬼ヶ岩屋温泉、海部病院などの既存施設や町の面積の八十七%の森林があります。これらを総合的に勘案すると、やはり「保養観光」を核とした町づくりが最善の選択だと考えています。出羽島や少年自然の家で海洋セラピーを、鬼ヶ岩屋温泉を起点に森林セラピーを行うことなど、交流人口の増加と仕事の創造をしたいと考えています。

第一に早急な避難所の設置です。これは、先の東日本大震災における津波被害から見直しの必要性は明らかです。具体的には、これまでの地域防災計画に指定された避難所を基に、海拔二十m以上の里山を選定し、まずは十mの位置の避難所を、そして、必要があればより高いところに避難できる形で、基本的な避難場所として選定したいと考えています。これらの避難場所は道路で結び行き来を可能とし、平時は散歩コースや公園として皆さんに日常的に使用し、管理していただく。また、これらの施設を使ったウォーキング大会などのイベントを開催し、交流人口の増加も図りたいと考えています。

まずは、まず場所を決め、避難路を段階的に整備し、来年度以降、地域防災計画を見直すとともに、避難所における施設整備を段階的に伴う仕事の創造ですが、三つ目の交流人口の増加と同様ですが、全て防災と保養をキーワードとして進めていきます。

四つ目の街並み景観と自然景観の整備ですが、牟岐町が本場に美しい町になれば、多くの方が訪れ、交流人口が増加し、自然に仕事が増え、町の人口も増えると考えています。それには、住民の皆さんと一緒に雑草を刈り、雑木を刈り、花を植えるだけで良いと思います。さらに、住宅も綺麗にしようとして少し手を加えていただけると良いと思います。いずれは景観法に定める景観行政団体になるべきで